

## 第35課 ショートメッセージ 「立ち上がるイエスさま」

聖書箇所：ルカ4：16－21

暗唱聖句：この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した

今週から今年度末にかけてルカによる福音書を学びます。

ルカはアンティオキア出身の医者で、歴史家でもあり、知性と教養にあふれた人でした。また、パウロの同労者として伝道旅行を共にし、ローマまで行っています。

ルカによる福音書は、異邦人に読まれることを意図して書かれています。そして、イエス・キリストの救いがユダヤ人だけでなく、世界中すべての人のものであることを強調しています。ルカによる福音書は4つの福音書の中で一番長く、新約聖書の中でも最長です。ルカによる福音書にしか書かれていない話には、「善きサマリヤ人」や「放蕩息子」のたとえ、「重い皮膚病にかかった10人の話」など、異邦人や貧しい人、病人や女性など、当時社会的に疎外されていた人たちの話が多くあります。そのような人々にも主の愛、救いを十分知ってほしいとの思いの表れだと思われま

ルカによる福音書の1～3章では、バプテスマのヨハネの誕生、イエス・キリストの誕生、神殿で学者たちと話す12歳の少年イエス、イエス・キリストの洗礼について書かれています。

その後、荒野で40日間イエスを誘惑した悪魔が去り、霊に満たされたイエスはガリラヤに帰って、会堂で教え始めます。その評判は広まり、皆から尊敬を受けました。

本日の聖書箇所は、イエスが、生まれ育ったナザレの会堂で、福音宣教をなさるところが書かれています。

イエスさまはいつものとおり会堂に入り、聖書を朗読されます。イエスさまは、それまでに、いくつもの会堂で同じように聖書を朗読されていたでしょうし、聖書の朗読はユダヤ人の成年男子に認められていたことなので、イエスさまが特別ということではありませんでした。ですから、いつものとおり会堂に入って、聖書を朗読されたのですが、その日は、いつもとは違う特別なことが起こりました。

「聖書を朗読しようとしてお立ちになり」、「預言者イザヤの巻物が渡され、お開きになると」、「次のように書いてある箇所が目にとまった」のです。イエスさまが、この日のナザレの会堂ではこの箇所を朗読しようとして前もって計画されていたのではなく、その時、主の霊が働いて、イエスさまにその箇所を朗読させたのだと思います。

イエスさまが朗読なさったのはイザヤ書61章1～2節を中心とした箇所でした。

イザヤ書は全部で66章から成り、1～39章を「第一イザヤ」、40～55章を「第二イザヤ」、56～66章を「第三イザヤ」と呼んでいます。第三イザヤは紀元前538年～500年頃にバビロン捕囚から帰還した人々に語られた言葉です。70年という年月を経て、やっとエルサレムに戻り、神殿の再建に喜んだのもつかの間、捕囚の期間中にこの地に住み着いた民族の妨害に遭い、工事は頓挫してしまいます。そのような状況の中、熱意や気力を失いかけている民に対して、慰めと希望、神殿の完成、城壁の完成の喜びを語ります。

イエスさまが朗読なさった61章1～2節には、イエスさまがなぜ来られたのかが書かれていました。

「貧しい人に良い知らせを伝えるため」「打ち砕かれた心を包むため」「捕らわれ人に自由を与えるため」「つながれている人に解放を告知するため」にイエスさまは主に遣わされたと聖書は語ります。社会の中で、小さく、弱く、虐げられていた人々にとって、その言葉はどれほど心強いものであったでしょう？

そして、さらに、「この聖書の言葉は、今日、あなた方が耳にしたとき、実現した」とおっしゃられました。聖書の言葉は神さまの言葉です。嘘偽りのない真実の言葉です。しかし、それを聞く私たちがただ聞くだけで、心から信じなければ、その言葉は虚しく、力を持ちません。私たちが心から信じて、主を受け入れるときに、その言葉は実現するのです。

私たちは、「この聖書の言葉が実現した今日」の2000年後を生きています。2000年前に実現したのですから、私たちは何もしなくてよいのでしょうか？そうではないと思います。礼拝では、聖書が朗読され、賛美がされ、メッセージが語られ、祈りがなされますが、ただプログラムに沿って、義務的に行うだけのものであるなら、礼拝にはなりません。牧師や司式者等の奉仕者を通して注がれる主のみ言葉を、愛を、心から信じて受け取る時、初めて礼拝となるのです。

2000年前にイエスさまの言葉を通じて語られた福音の喜びは、今も日々新しく注がれるものであり、そして、それを受ける私たちも、その喜びを生き言葉で伝えていかなければならないと思います。

#### ●分かち合い

- ・ 主からのメッセージはすべて聖書に書かれています。一人で読む、誰かと一緒に読む、通読する、その時気になった箇所を読む…皆さんはどのように聖書を読んでいますか？
- ・ 日本バプテスト連盟では11月27日から12月4日を「世界バプテスト祈禱週間」として覚え、祈りを合わせます。福音を伝えるために立ち上がり、海を渡ったロティ・ムーンの働きから生まれた世界バプテスト祈禱週間ですが、社会の中で厳しい環境に置かれている人々に福音を伝えるために私たちに何ができるか、考えてみましょう。

(担当：Y.T.)